

# マルトミです

8・9月号 (隔月刊)

日頃のご愛顧に心より御礼申し上げます。



## お知らせ

- ☆ 8月は10日から15日を夏期休業とさせていただきます。ご迷惑をおかけし申し訳ありませんが、何卒よろしくお願い致します。その間、お急ぎの場合は090-4709-7489（富取）までご連絡ください。尚、8月26日以降10月4日までは休まず営業いたします。
- ☆ 暑い中ですが、今年もショールームではホンダ除雪機の展示を始めました。ここ毎年、人気機種はシーズン前に売り切れてしまう状況が続いています。御希望の機種が入手できる今のうちにぜひ御予約をお願い致します。
- ☆ 前号でもご案内しましたが、8月5日から31日まで高田郵便局のロビーで「虫展」が行われています。当社富取が世界の昆虫標本を展示するほか、昨年春まで大潟水と森公園のパークレンジャーをされていた高橋桃子さん(現在は東京在住)にもイラスト展示でご協力をいただき、普通の昆虫展とはちょっと違った感じになっていると思います。お時間がありましたらぜひご覧ください。

マルトミカレンダー（8月～10月） 赤色は休業日

8月							9月							10月						
日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土
				1	2	3	1	2	3	4	5	6	7			1	2	3	4	5
4	5	6	7	8	9	10	8	9	10	11	12	13	14	6	7	8	9	10	11	12
11	12	13	14	15	16	17	15	16	17	18	19	20	21	13	14	15	16	17	18	19
18	19	20	21	22	23	24	22	23	24	25	26	27	28	20	21	22	23	24	25	26
25	26	27	28	29	30	31	29	30						27	28	29	30	31		

10～15日 夏期休業

5・6日 展示会



## 株式会社 マルトミ

本社: 上越市西田中236-9(企業団地内)

TEL(025)524-1181 FAX(025)524-1184

E-mail: [info@maru-takada.com](mailto:info@maru-takada.com)

ホームページ [www.maru-takada.com](http://www.maru-takada.com)

新潟県認定農業機械整備工場(大) ・ ヤンマー農業機械整備士工場 ・ ホンダ ベスト特約店

## マルチの業務ご案内

当社は機械類の販売と点検・修理を主な業務としています。簡単に内容を御案内しますが、これ以外にもいろいろありますので、どんなことでもどうかお気軽に御相談下さい。

### 農業機械



プロ用の大型機械から家庭菜園用のミニ耕うん機や電動の芝刈機まで、信頼できる一流ブランドの商品のみを販売しています。高度な資格を持った専門のサービススタッフと一般修理ができる営業スタッフとの連携により、アフターサービス体制も万全です。

主な取扱メーカー： ヤンマー・ホンダ・共立・ゼノア・大島他

### 除雪機



家庭用の小型のものから大型のプロ用タイプまで扱っております。もちろんアフターサービスも万全で、毎年シーズン前におとくな事前点検の御案内をさせていただき、また、オフシーズン中のお預かりも致しております。

主な取扱メーカー： ヤンマー・ホンダ・ヤナセ

### 家庭用の商品いろいろ

発電機・薪ストーブ・整水器・シャッター物置等々、信頼できるメーカーのお役に立つ商品をいろいろ扱っています。



### 消防防災機器



消防署などの官公庁向けの大型機械も扱い、現在上越市と糸魚川市で活躍しているはしご車も当社で納入させていただきました。

もちろん、消火器・火災警報器・避難袋など、家庭用の商品も広く扱っておりますので、ぜひご利用願います。



### 修理・整備関係

当社は県認定農業機械整備工場(大)・ヤンマー農業機械整備工場・ホンダ汎用機ベスト特約店として、一般のエンジン機械の点検・整備・緊急の出張修理等、全てにわたり迅速、確実、低料金にて対応させていただきます。農業機械、除雪機はもちろん、それ以外の機械でもメーカーを問わず修理いたします。(但し自動車・バイク・建機等は除きます。)

また、部品についても迅速にご提供できますので、どうかご利用願います。



## 7月6・7日 夏の感謝祭を開催しました。

今年も恒例の夏の感謝祭を開催致しました。御蔭様で毎年盛況のこのイベントですが、悪天候の中でもいつにも増して大勢のお客様がご来場くださり、記念品のブルーベリーの苗木が、多めに用意してあったにもかかわらず日曜の午前中に終わってしまいました。せっかくお出でいただいたのにお渡しできなかった皆様には本当に申し訳ありませんでした。



夏の行事としてすっかり定着した感のある三条の職人さんによる刃物とぎとクワ修理は今回も大人気でした。包丁だけでも60本以上になったそうで、いずれもリピートのお客様が多いのが嬉しいとのことでした。同じく夏恒例の、野菜作り教室、山野草教室、緑の市場のコーナーも好評でした。次回もどうかよろしくお願い致します。

## ミズホの稲作講習と青田指導、実施しました。

前回の紙面でミズホのエムリン農法の宣伝をさせていただきましたが、6月17日にその講習会と、実践されているお客様の田んぼに伺っての青田指導が行われました。ご参加下さった皆さんは、とても熱心に質問や意見交換をされていました。

御参加、御協力頂いた皆様、どうも有難うございました。また行いますので、興味をお持ちの方はぜひご参加ください。



ミズホの高田事業部長による講習

## お客様訪問

### 上越市 高島真一さん

高島さんは上富川で高島農園を経営しておられます。水田耕作面積は、委託も含め現在22haで、来年は一気に40haに増える予定だそうです。米以外にも、ネギ、トマト、オータムポエム、ソバなどたくさん作っていて、大忙しの毎日です。野菜はあるるん畑にも出しておられるそうなので、皆様の食卓にも上がっているかもしれませんね。



今は忙しすぎて他に頭が回らないけれど、いずれは自分のお店を出して、丹精込めて作った作物をお客様に直接販売したり、さらには料理店を開いて皆さんに食事を楽しんでもらいたいというのが高島さんの夢だそうです。



秋の収穫を待つネギ畑

今回農園を案内してもらって感じたのは、自然の豊かさです。作物の安全・安心を保障するかのよう、生き物の気配が濃いのです。マスクメロンを作っている温室の中でもかわいいアマガエルがたくさんいて、こんなところにまで自然の生態系が保たれているところが高島農園のすばらしさだと思いました。



南国の香り ジャコウアゲハ

先月、我家にうれしい出来事がありました。以前庭にウマノスズクサを植えて、それから10年以上ずっと待ち続けていたジャコウアゲハが、ついに来てくれたのです。最初、ベランダ越しにネムの花で吸蜜しているメスが目に入り、外に出てみるとウマノスズクサの周りを別のメスがゆっくりと飛んでいました。全部で3頭いて、どれも羽化したてのような新鮮な個体だったので、もしやと思いその辺りを念入りに探してみたら、卵の他に、終齢幼虫と蛹の殻も見つかりました。おそらくこの春、気づかないうちにメスがやってきて産卵し、孵った幼虫がここで育って成虫になったのでしょう。

ジャコウアゲハは、日本の大型アゲハの中で他の種類とは違う雰囲気を持っています。オスは一見ふつうの黒いアゲハのようですが、メスのハネはベージュ色で、飛び方もゆっくりとしています。幼虫や蛹もずいぶん変わって見えますが、それは元々南方系の蝶で日本では仲間がいないためにそう見えるだけで、熱帯アジアに行くと幼虫がウマノスズクサを食べるこのグループは繁栄していて、例えばトリバネアゲハの幼虫もサイズが大きいだけで形はこれとそっくりです。つまりジャコウアゲハは、その美しさと巨大さで世界の蝶の王様とされるトリバネアゲハと同じ仲間なのです。それにしても地味すぎると思われるかもしれませんが、そこが日本にすむ蝶の奥ゆかしさなのでしょう。よく見れば体の赤い部分とか、共通の特徴もないことはありません。

ジャコウアゲハの名は、雄の成虫が発する甘い匂いに由来しています。それが何の役に立つのかはわかりませんが、ジャコウ（麝香）という言葉には何か神秘的な雰囲気があって、それがこの蝶によく合っている気がします。この匂いがあってのおかげでウスチャアゲハなどというありきたりの名前にされずにすんだのも幸せだったと思います。

ジャコウアゲハは、多くのなかまがいる熱帯アジアを離れ唯一日本の温帯域にまで進出している種類ですが、同じような例は他にもあります。アオスジアゲハ、アサギマダラ、イシガキチョウ、ウラギンシジミなどがそうです。これら熱帯起源の蝶の多くに共通するのは、隠しようのない南国の鮮やかさです。青空を背景に飛ぶアオスジアゲハの透き通った青色や、ウラギンシジミの表裏の強烈なコントラストは、実際のところ、雪国上越の自然の中では違和感がありまくりです。そういう目で見るとアサギマダラの姿も南の蝶そのものなのですが、

私はこの蝶だけには違うイメージを持っています。

蝶の採集を始めて間もない中学か高校生の時、燕温泉近くの山道で霧の中から突然ふわっと現れ、無我夢中で振ったネットにすぱっと入った瞬間のあの感激、さわやかな高原の空気の中で初めて出会った憧れの蝶の美しさ。私の中のアサギマダラはそのシーンで止まっていて、それ以降、南国の地でランタナの花に群がる光景を見ても、暑い浜辺を飛ぶ光景を見ても違和感を感じてしまうのです。 これからもきっと変わらないでしょう。 (ミ)

